

成人式祝辞

冒頭挨拶

新成人の皆さん、おめでとうございます。また、今日まで深い愛情を持ってお子さんを立派に育て上げられた保護者の皆様、ご家族の皆様にも重ねてお喜びを申し上げます。

皆さんの現在の心境はいかがでしょう。大人の仲間入りをするといった気負いよりは、久々の故郷での旧友との再会に心躍っているといったところが本当のところかもしれません。折角の節目でありますので、皆さんが過ごした20年の軌跡を、これまで皆さんを支えてくれたご両親や大勢の方々との出会いに感謝しつつ、思い返してか噛みしめていただきたいと思います。

生まれ年

皆さんは、平成4年から平成5年生まれではありますが、その頃はどんな年であったか少々振り返ってみたいと思います。1992年から1993年にかけてバルカン半島で紛争が続きました。その後、ユーゴスラビアとチェコスロバキアが解体したのは、ご承知の通りであります。また、毛利衛さんが日本人で初めて宇宙飛行した年でもあります。国内的にはバブル景気が終焉し就職氷河期が始まった年として記憶されており、その後は失われた20年とも言われる景気の低迷が続いています。

もちろん生まれた年のことは、皆さんにとっては記憶にないことかもしれませんが、その後起きた北海道南西沖、阪神淡路、東日本の三つの大震災は、災害列島に住む私たちの宿命として今後長く語り継いでいかなければならない出来事でありました。特に、一昨年の東日本大震災における被害は甚大なものであり、皆さん方も大変心を痛めていると思います。復旧・復興がままならぬ中、世界中の人々が「日本人はこの困難をどう乗り越えていくのだろうか？」と固唾をのんで見つめているということも覚えておかなければなりません。根拠のない楽観や悲観は戒めなければなりません。再生するという強い意志とそのために必要な反省と行動が大切なのだと思います。

皆さんには、さらに多くの試練が待ち受けていることと思いますが、そのような状況に決して臆することなく、皆さんのあふれる若さとパワーで、様々な困難を乗り越えていただきたいと願っています。いつの時代も社会は若い世代にとってハードルが高く、不条理に映るものですが、しかし、そんな社会を新しい形に変えられるのも、また皆さんのような若い世代であります。

大人の自覚

ここで私からいくつかのお願いがあります。20才ともなれば、今後はこれまで以上に皆さんに対する期待が大きくふくらんで参ります。権利と自由はより大きなものとなり、その代わり自己責任や義務はより重くなります。それは、様々な法律で成年と未成年を区別

し、権利や義務、そして意思表示に対する結果責任などの面でその扱いは大きく異なっているからであります。精神的にも肉体的にも社会の一員として自立できる、自立していると評価されているからであります。私は、これらに付け加えて、人と人の絆に思いを馳せ、人に寄り添う思いやりを大きく育てていただきたいと願っています。

政治参加

もう一つは、政治参加に関するお願いです。昨年暮れには衆議院総選挙が実施されました。今年の夏には参議院通常選挙が執行されます。その都度マスコミの話題の中心となりますが、一方で、各種選挙の投票率の低下に歯止めがかからないことが心配です。野暮なことは言いたくありませんが、将来の日本の姿を決めるのは皆さんの一票一票だということ肝に銘じてください。現下の状況は、政治家に責任があると思いますが、その政治家を選ぶのは有権者であり、棄権は、まだ見ぬ結果に白紙委任したことになります。時代や社会に物申す権利と責任を放棄したことになります。皆さんの一票を通した意思表示が大変重いことを、ぜひ覚えておいていただきたいと思います。

贈る言葉

話を変えて、昨年末の明るい話題といえば、何と言ってもiPS細胞の研究でノーベル医学・生理学賞を受賞した京都大学の山中伸弥教授でしょう。その山中教授はインタビューに「1回成功するために9回失敗することを覚悟しなければならない。現実には、何十回もの失敗を繰り返した。やめなくなったり、泣きなくなったりしたこともあったが、家族や研究仲間の支えがあって続けてこられた」と答えたと同いました。西洋には“Where there's a will, there's a way.”という諺があります。「意志あるところに道はある」と訳しますが、日本では上杉鷹山の「為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」が有名です。共通するのは、固い意志と困難に挑戦する行動力こそ大切であるということだと思います。皆さんは若くて、未だ夢や目標をしっかりと定められない人もいます。だからといって、足元を定めず、困難に遭う度に、逃げてはいけません。今いる場所で、最高の生き方をする、失敗を恐れない、それが青春だと思います。皆さんがこれから歩む道は、決して平たんな道ではありませんが、多くの出会いと一つひとつの努力の積み重ねがいつか必ず大きな実を結ぶことになると思います。結びに、皆様の前途とご家族の皆様に幸多かれとご祈念申し上げ、祝辞といたします。

平成25年1月13日

厚真町長 宮坂 尚市朗